

教職員委員会 NEWS

No.28 : 最終号

➤ 教職員委員会の解体

生協教職員委員会は、1997年、県立新潟女子短期大学に生協が誕生したときに、教職員の立場から生協の活動を支援したり、生協に支援してもらって親睦を深めたりするための組織として発足しました。当初は、学生委員会と共に、学内外にわたって活発に活動していました。その後も、「どこでもドアのかぎ」発行などを続けてきましたが、この数年間は、「委員会」が開催されることもなく、役員を改選したり、組織のありかたや今後の方向性を再検討したりすることもままなりません。2009年4月には、独立行政法人として新潟県立大学が開学し、大学における生協の位置づけにも大きな変化が訪れましたが、教職員委員会としては、この変化にも対応できないままでした。生協が抱えることになった、学生数の減少や大学の経営体制の変化への対応、といった問題に対して、有効なサポートを行うこともできていません。

生協は今、特に収支において極めて厳しい状況に立たされています。教職員組合員に積極的に関心をもっていただくことなしには、存続も危ういと言わざるを得ません。そこで、教職員委員会としての歴史には幕を下ろし、新潟県立大学においてより実効的に活動できる組織とすることをめざして、教職員フォーラムを発足させることになりました。

➤ 「教職員フォーラム」とは

生協の教職員組合員の皆様を構成員とするゆるやかな集まりです。「委員会」のように「委員」で構成されるものではなく、興味のある活動に、随時、自由に参加できる組織とします。

主な活動内容（予定）は以下のとおりです。

- ★ 「どこでもドアのかぎ」発行に際して、教職員の皆様に執筆のお願いをします。また、教職員組合員に呼びかけて「編集委員会」を組織します
- ★ メンバーの発意に基づき懇親行事を企画・実行します
- ★ 他大学生協教職員組織との交流を図ります
- ★ 「教職員フォーラムニュース」（仮題）を発行します
全体のまとめ役としては、理事長が「世話役」を委任することになりました。国際地域学部の黒田俊郎先生が、初代の

世話役に就任されます。また、諸連絡には、生協メーリングリストを活用します。教職員組合員のみなさまのうち、これまでcoop-MLを利用されていなかった方については、これを機にアドレスを登録させていただきますのでご了承ください。

「教職員委員会 NEWS」も最終号となります。長きにわたるご愛読、どうもありがとうございました。この次には、装いも新たにお目にかかりたいと思いますが、「きき耳ずさん」はこれからも存続の予定です！！

きき耳ずさんのコーナー

新発田での旅

小谷 一明

先日、私が県短に着任した年の2年生であった卒業生と再会した。彼女らも30歳を迎え、一人が出産を間近に控えていた。会食の連絡を受けた際、新発田であれば前祝いにかけつけられるのだがと伝えると、もともと新発田で食事をするようになっていたと言う。妊婦さんは私の家から遠くないところに住んでいるため、さもありなんとお店の場所を聞いた。すると私の家から自転車でも5分のところに素敵なお店があるという。五十公野公園ではあやめ祭り、私の家の前にある御茶屋（新発田藩の旧溝口公邸）もイベントが開催されているようで、会食当日は多くの人が繰り出していた。新発田にしては珍しく活気あふれる日曜だった。待ち合わせのウオロク豊町店の駐車場で卒業生と合流。そのお店まで案内をもらった。お店は ORGA といい、加茂にあった倉を移築した古民家風のレストランであった。普段お店の前をまったく気付かずに素通りしていたことになる。隣は高校時代によく友人とブランコに乗りながら、これからの将来を語り合った「なかよし公園」。ほのかに高校時代を思いだしながら店内に入った。お店は狭くお客であふれかえっている。予約をしないと平日でも入れないようだ。メニューにまず驚いた。新発田でフレンチのお料理が食べられるのか。地産の有機野菜を使った本格的なメニューの勢揃い。「これは闊いになりそうだな」と彼女たちに目配せをし、ランチを越えるランチのオーダーを開始した。見事な料理であった。子羊の香草焼き、魚介のアンチパスト、新発田の野菜を使ったサラダ、香り豊かなパスタ、野菜のクレープ。料理はすべて一人のシェフが手狭なスペースで作り出す。これまでシュークリームで有名なとりたま工房だけが新発田の自慢であった。新たな食の歴史が今、新発田で始まった。